

さようなら  
やさしさだけの男たち

巣立つ朝  
風の歌がきこえる

# もう頬づえはつかない

あひるの+ATG提携作品



監督 東陽二

桃井かおり  
奥田英二  
森本レオ  
加茂さくら  
根岸明美  
織本順吉  
伊佐美津江  
都倉成美  
日夏たより  
多田千香  
岐邑美沙子  
田村三輪子  
倉地雄平  
市川夏江  
大橋芳枝  
花上晃  
伊丹十三  
企画 多賀祥介  
製作 有馬孝  
原作 工藤英博  
原作 兄延典子  
脚本 小林竜雄  
脚本 東陽二  
撮影 川上皓市  
照明 磯崎英範  
美術 綾部郁郎  
録音 久保田幸雄  
音楽 田中未知  
記録 八巻慶子  
編集 市原啓子  
スチール 山田修二  
助監督 栗原剛志  
製作補 佐々木啓

●主題歌  
作詞 寺山修司  
作曲 山本徳司  
編曲 山本徳司  
歌 桃井かおり  
ビクターレコード (カセット・CD)

12月15日(土)よりロードショー 日劇文化(201)2212

日劇地階アート・シアター

# もう頬づえはつかない

あんどる+ATG提携作品／1時間53分

監督 東陽一 主演 桃井かおり

企画 多賀祥介  
製作 有馬孝  
原作 見延典子  
脚本 小林竜雄  
監督 東陽一  
撮影 川上皓市  
照明 磯崎英範  
美術 綾部都郎  
録音 久保田幸雄  
音楽 田中未知  
主題歌 荒井沙知  
(ビクターレコード)  
主題歌・作詩 寺山修司  
音楽制作 古保則夫  
記録 八巻慶子  
編集 市原啓子  
助監督 栗原剛志  
製作補佐 佐々木啓  
監督助手 新井慎一  
撮影助手 中村喜代太  
吉田清継  
照明助手 武山弘道  
馬場修  
美術助手 星望恵子  
多胡好兼  
滝 善光  
録音助手 田辺信通  
製作主任 若月治  
製作助手 岩田賢二  
メイク オフィスコジマ  
近藤真理子  
車輛 日本照明  
柳田照夫  
衣裳 東京衣裳企画室  
特機 明光セレクト  
協力 住田望  
篠田昇  
佐々木信子  
吉野屋  
協力 ホテサルト東京  
星月堂  
サロニア・オ・モア  
(株)イサム  
VIVA YOU  
ビクターレコード  
協力 加茂さくら  
根岸明美  
織本順吉  
伊佐美津江  
都倉成美  
日夏たより  
多田千香  
岐邑美沙子  
田村三輪子  
倉地雄平  
富永恵利子  
谷川美沙  
伊丹十三

## 解説

一九七八年、ブルーリボン最優秀作品賞、キネマ旬報ベストワンなどで日本映画界の話題をさらった『サード』の鋭才、東陽一が、再びATGと提携して作った作品である。

原作は、発売以来、同世代の学生やOLに熱狂的に受け入れられ、ベストセラーとなった見延典子の早大文芸科卒業小説。一人の女子大生の愛と性を、二人の男子学生をからませて描いたさわやかな青春小説であり、女性読者から「まるで自分のことが書かれているようだ」と言われるような、生々しいセックス場面をかわいたタッチで描いている。

映画化するにあたって、東陽一は、「若い女の息づかいのクロロゾアアップ」あるいは「体温の伝わる」映画にしたいと語り、原作のエッセンスを生かした上で、いわば70年代の総決算ともいえるべき作品に仕上げていく。まり子と橋本の70年代、恒雄の全共闘世代、そして高見沢夫妻の中年世代といった世代論と時代をふまえながら、男と女の実像にせまろうとする。いわば現代の青春を切実に生きている人間たちを「日常生活」から照射しようとするものだ。脚本は「もつ」としなやかに「もつ」としたたかに、「ホワイトラブ」などの新鋭、小林竜雄と東陽一の共作。撮影は『サード』のフレッシュュな映像で注目をあびた川上皓市。録音は毎日映画コンクール録音賞に輝く久保田幸雄。音楽はこれまた『サード』に続いて東作品を担当する注目の女性作曲家、田中未知である。主題歌は寺山修司が作詩し、荒井沙知が歌う。

主演の桃井かおりは、企画発表時から名乗りをあげ、「東さんがこの映画を他の女優で作るかも知れないというので、とても嫉妬を感じた」と語ったほどで、意欲充分。彼女の全く新しい魅力をいかに発揮している。



## あらすじ

早大の学生のまり子は、同じ大学の商学部で橋本と奇妙な同棲生活をしていく。バイト先で知り合い、そのまま橋本がまり子の部屋に転がりこんできたのだ。二人は当然のようにセックスをする仲になるのだが、まり子は避妊具を付けることを要求した。まり子は半年前に行くえをくもらした「風来坊」の恒雄の存在を忘れた訳にはいかなかった。恒雄は三十過ぎの芽のでないポライターだった。

まり子は恒雄と出会い、急速に恋に落ち入り、同棲し、ふり回され、そのあげく薬剤師になろうとするささやかな夢を捨ててしまい、大学を変えた。まり子にとって恒雄と、日常生活にこだわる橋本とは対照的な二つの「男」のタイプに思えた。そうはいっても身近にいる男である橋本の愛嬌ある憎めない行動に次第に心を魅かれるようになったことも事実だった。

まり子は、恒雄とのことで札幌の母と喧嘩をし、以前から仕送りやストロップしていたためにまた新しいバイトを探すことになった。大家の中年男の高見沢が妻のトキ子のやつっている美容院の見習いの口を紹介してくれた。高見沢は画家くずれでトキ子が食べさせていた。

風の強い日、美容院の屋上でまり子がタオルを干しているとき高見沢がやつてきてタオルの「能率の干し方」を伝授するのだった。まり子には高見沢の男としての辛さが分るようにも思えた。橋本がまり子にビールを飲むことを提案した。橋本のアパートにいる明美というデザイン学校の学生が持っているというのだ。まり子は少し考えてから了承した。明美はまり子に酒の勢いで彼女と橋本が以前つきあっていたことを暴露した。まり子は不愉快になって外に出るのだった。そんなある日、高見沢がトキ子にハサミで腿を刺されるという事件がおこった。床に飛び散った血の跡は大人の愛欲の色にまり子には思えた。美容院は当分閉めることになり、まり子は自動的にクビになった。そんなある夜、橋本と二人で眠っているまり子の部屋の扉を、激しくノックする音が聞える……。